

令和5年度事業報告書

県内畜産農家の経営の安定に寄与し、本県の畜産振興を図るとともに、畜産や牧场景観を広く一般県民等に理解してもらうため、県立八ヶ岳牧場及びまきば公園の指定管理者として、基本協定書に基づき両施設の事業目的を達成するために取組んだ当協会の事業実績は次のとおりである。

1) 八ヶ岳牧場管理受託業務

(1) 県有肉用繁殖牛の飼養、生産子牛の育成及び売却業務

県有肉用繁殖牛179頭を本場で繋養し、系統毎に選抜された優良な繁殖牛に対して計画交配を行い、これら母牛から産まれた優良子牛を育成し、県内の肉用牛振興地域の農協等へ繁殖又は肥育素牛として133頭を売却した。また、雌の一部を牧場に保留し繁殖牛の更新を図るとともに、繋養計画から除外した繁殖牛は、山梨食肉流通センターへ廃用出荷を行なった。

一方、ヨーネ病に関しては、令和5年3月に清浄化(カテゴリーⅠ農場に復帰)した。引き続き県有牛全頭を対象に年一回ヨーネ病の定期検査を実施するほか、母牛については分娩前2週間以内に、PCR検査(直腸内のヨーネ菌遺伝子検査)を実施し、保菌牛の早期発見・淘汰並びに牛舎消毒等のヨーネ病発生防止対策を継続して行った。

[表1] 県有牛の飼養状況

性別	区分	動物(成牛)頭数(頭)									生産物(子牛・育成牛)頭数(頭)									合計	
		前年度より	生産物区分替	導入	廃用	出荷指示	売却却	保管転換	死亡	自主淘汰	小計	前年度より	出生	動物へ区分替	売却却	廃用	保管転換	死亡	自主淘汰		小計
雌		191	24		-34				-1	-1	179	98	72	-24	-52			-1		93	272
雄																					
去勢												56	104		-81			-8	-1	70	70
計		191	24		-34				-1	-1	179	154	176	-24	-133			-9	-1	163	342

売却頭数は、元年度にヨーネ病が確認され患畜の処分や同居牛の自主淘汰の影響により減少していたが、3年度から増加し、4年度は146頭であった。5年度は前年度の自主淘汰頭数及び育成雌牛の保留頭数の増加が影響したため、売却頭数は減少し133頭であった。売却先は、肉用牛生産が盛んなJA梨北が約7割を占め、ヨーネ病の清浄化後も、妊娠牛の売却を控えていたことから、繁殖素牛の需要が多い農協への売却割合は少なかった。

[表 2] 農協別売却頭数

(頭)

農 協 別 売 却 頭 数														
区 分	梨 北							笛 吹		南アルプス市		山梨みらい	山梨県酪	合計
	小淵沢	高根	清里	穂坂	白州	明野	韭崎	八代	笛南	野々瀬	南湖			
去 勢 牛		7	11	7	5		25	12	3			11		81
育成雌牛		3	6	7	6	4	12	7				7		52
育成妊娠														
経産妊娠														
計		10	17	14	11	4	37	19	3			18		133

(2) 農家家畜受託状況

夏期受託家畜は、天女山分場を中心に放牧管理(5/1～10/31)を、冬期受託家畜は、本場牛舎で飼養管理(11/1～4/30)を行い、農家等が保有する乳用牛、肉用牛の受託管理の状況は〔表 3〕、〔表 4〕のとおりで、本年度の牧場利用頭数は実頭数・延頭数ともに過去最高を記録した昨年度には及ばなかったが、過去 2 番目の頭数であった。

前年度に引き続き、冬期受託牛については県有牛飼養管理エリアとの間でゾーニングによる衛生管理を行い、また、継続して預託されている牛は翌年度への繰り越し処理を行った。

また、受託期間中農家の希望に沿って、種付け月齢に到達した牛に人工授精及び受精卵移植による種付けを行い、〔表 5〕のとおりそのほとんどが受胎(妊娠)した。不受胎牛の多くは繁殖不良として入牧してきた牛や高齢牛、子宮・頸管の構造に異常が見られた牛であった。

[表 3] 農家家畜受託状況

(頭)

		受 託 頭 数			
		乳用牛	肉用牛	馬	合 計
前年度より継続		2 0 7	9 7	0	3 0 4
本 年 度	入牧頭数	1 7 5	2 5 4	0	4 2 9
	退牧頭数	2 1 4	2 4 9	0	4 6 3
	死亡頭数	2	2	0	4
合 計		1 6 6	1 0 0	0	2 6 6

[表 4] 受託家畜の実頭数及び延べ頭数

(頭)

区 分	乳用牛	肉用牛	馬	合 計
受託実頭数	3 8 2	3 5 1	0	7 3 3
受託延頭数	8 4, 8 2 0	5 0, 3 6 1	0	1 3 5, 1 8 1

〔表 5〕 受託家畜の種付状況 (AI:人工授精 ET:受精卵移植) (頭)

	種付頭数	AI 受胎頭数	ET 受胎頭数	合計受胎頭数	妊娠率
乳用牛	2 1 6	1 6 0	5 3	2 1 3	98.6 %
肉用牛	1 6 9	1 5 2	1 3	1 6 5	97.6 %
合 計	3 8 5	3 1 2	6 6	3 7 8	98.2 %

(3) 牧草地等の維持管理業務

本場及び分場の牧草地に対し、〔表 6〕 のとおり計画的に肥料散布を行い良質な牧草を生産するとともに、冬期用貯蔵飼料(サイレージ)の生産状況は〔表 7〕 のとおりである。

貯蔵粗飼料については、春先の低温による生育不良等に伴い、一番草で刈遅れが生じたものの、梅雨や長雨による影響は少なかった。このことから、例年予定している収穫面積より少なくなったものの、乾草を含め、2,082ロール(サイレージ2,025ロール、乾草57ロール、前年度比105%)と平成27年度以来の2,000ロール越えを達成した。

また、牧草地内の播種、堆肥散布及び雑草の防除や牧道の補修整備をはじめ、場内の保安林の間伐や倒木の撤去並びに車両・農機具等の点検整備と修理を随時行い、草地並びに車両・農機具等の保全管理に努めた。

〔表 6〕 肥料散布状況

肥料散布面積と施肥量				
区 分		放牧地	採草地	合 計
散 布 面 積		2 4 9.8 ha	7 6.7 ha	3 2 6.5 ha
施 肥 量	牧草地用複合肥料	5 4.0 t	1 1 7.3 t	1 7 1.3 t
	粒状炭酸苦土石灰	5 2.5 t	4 5.3 t	9 7.8 t
	計	1 0 6.5 t	1 6 2.6 t	2 6 9.1 t

〔表 7〕 牧草生産状況 (t)

牧草生産量(生草換算)					
区 分	放 牧 地	採 草 地			合 計
		サイレージ用	乾草用	計	
生産量	5,516	3,038	88	3,126	8,642

(4) 農家の巡回調査指導業務

八ヶ岳牧場への預託牛飼養農家及び当牧場からの売却牛飼養農家等の巡回調査を実施し、発育や繁殖状況等について調査し、飼養・繁殖管理技術に係る指導を行った。

〔表 8〕 農協別農家巡回状況 (戸)

区分	梨北農協	県酪農協	笛吹農協	クレイン	山梨みらい	南アルプス	合 計
戸 乳牛	8			10			18

数	肉牛	14		4	6	1	3	28
合 計		22		4	16	1	3	46

(5) 受精卵移植普及定着化業務

協会では、畜産酪農技術センター(受精卵供給メインセンター)に協力して、当場で繁殖管理している優良雌牛(26頭)に過剰排卵処理(ホルモン投与)を行い供卵牛として提供するほか、受託管理している農家預託牛に受精卵移植を行なうなど、サブセンターとしての役割を果たした。

(6) 家畜糞尿堆肥化処理業務

家畜糞尿処理施設において、牧場内や県馬術競技場並びに北杜市小淵沢町内の畜産農家及び乗馬クラブから排出される家畜糞尿の堆肥化処理〔表9〕を行い、生産した牧場の堆肥製品については、峡北地域の野菜農家を始め、峡東、峡中地域の果樹農家等に販売を行なった。

また、場内の放牧地及び採草地への堆肥散布も行った。

〔表9〕家畜糞尿堆肥の生産状況

(m^3)

家畜糞尿搬入量と製品堆肥搬出量				
区 分	八ヶ岳牧場	馬事振興センター	小淵沢町流通組合	合 計
糞尿搬入量	5,246	793	3,432	9,471
堆肥生産量	2,647	413	1,728	4,788
堆肥搬出量	2,858	308	1,608	4,774
販 売 量	1,169			
圃場使用量	1,689			

(7) その他の業務

ア. 職員研修等

協会職員の資質の向上を図るため、専門技術研修や全国発表会並びに作業機械免許等取得講習会等に延べ10名が参加した。〔表10〕

〔表10〕 研修内容

	研修期間	日数	研修名	研修内容	人数	研修機関
1	5月18～19日	2日	和牛審査委員会	審査研修	2人	全国和牛登録協会
2	6月12～16日	5日	中央畜産研修	肉用牛生産技術指導者養成	1人	(独)家畜改良センター
3	10月2～6日	5日	中央畜産研修	肉用牛生産技術指導者養成	1人	(独)家畜改良センター
4	12月12～15日	4日	中央畜産研修	肉用牛	1人	(独)家畜改良センター
5	1月15～17日	3日	建設機械作業研修	小型移動式クレーン	1人	PEP 建機教習センター
6	2月7日～8日	2日	建設機械作業研修	車両系建設機械	1人	PEP 建機教習センター
7	2月15日	1日	AI 優良技術発表会	技術発表・講演会	1人	家畜人工授精師協会
8	2月19～21日	3日	建設機械作業研修	玉掛け技能講習会	1人	PEP 建機教習センター
9	3月4～6日	3日	建設機械作業研修	玉掛け技能講習会	1人	PEP 建機教習センター

イ. 黒毛和種基本登録業務等

八ヶ岳牧場に預託されている預託牛や牧場に繋養している県有牛の和牛基本登録を行なうため、登録審査員資格を有する職員が47頭の登録を行なった。

また、(株)山梨食肉流通センターで開催された県、JA並びに食肉流通センター主催の肉用牛枝肉共進会の枝肉審査員に職員を派遣した。

2) まきば公園管理受託業務

(1) まきば公園の利用状況

4月20日に開園。5月の連休明けに、コロナウイルス感染症が5類に移行されたことを受け、各種イベントをコロナ禍前と同様に実施するとともに、ホームページを通じた積極的な情報発信により利用の拡大に努めてきた。

また、遊歩道の案内看板のリニューアルや駐車スペースの幅員拡大など、公園の魅力や利便性を高めるための取組も進めてきた。

しかし、7月下旬の集中豪雨で八ヶ岳横断道が2週間に渡り通行止めになったことや、年間を通して週末に天気が崩れることが多かったことなどにより、11月12日までの開園期間中の利用者は、前年度に比べ23%減の134千人にとどまった。

[表11] 月別入園者数の状況

(人・台・団体)

月	開園 日数	推定入園 車両数	推定 入園者数	車両 ／日	入園者 ／日	予約 団体数
4月	10	1,830	4,550	183	455	7
5月	27	9,340	24,330	346	901	19
6月	26	4,060	13,270	156	510	56
7月	28	7,080	19,420	253	694	38
8月	30	11,850	31,520	395	1,051	43
9月	26	6,700	17,530	258	674	28
10月	26	6,010	15,650	231	602	38
11月	11	3,060	7,810	278	701	12
合計・平均	182	49,930	134,080	271／日	729／日	241

(2) 県有めん羊の増殖業務

まきば公園内の動物ふれあい施設において、サフォーク種の飼養管理を行うとともに、子羊27頭を生産し、県内農家等に27頭を売却した。

[表 1 2] 県有緬羊の飼養状況

(頭)

区 分 性 別	動物（成めん羊）頭数						生産物（子・育成めん羊）頭数						合 計
	前 年 度 よ り	生 産 物 区 か 分 ら 替	売 却	廃 用	死 亡	計	生 産	動 物 へ 区 分 替	売 却	廃 用	死 亡	計	
雌	38	9	16		2	29	10	9			1	0	29
雄	12	18	11		0	19	20	18			2	0	19
計	50	27	27		2	48	30	27			3	0	48

(3) 畜産に関するイベントの開催実績

フェルト教室	(開催回数: 6回 参加人数 196名)
めん羊毛刈り体験実習	(開催回数: 2回 参加人数 22名)
自然観察会(山菜・きのこ教室)	(開催回数: 2回 参加人数 26名)
まきばウォーク	(開催回数: 4回 参加人数 107名)

3) 死亡牛焼却委託業務

県西部家畜保健衛生所からの業務委託契約に基づき、農家で死亡した96ヶ月齢以上のBSE検査対象牛の保管・焼却並びに焼却施設の保守管理を行った[表 1 3]。

[表 1 3] 月別死亡牛の焼却頭数

(頭)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
焼却頭数	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4

3. 附属明細書（事業報告関係）

令和5年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。